

解答

□

- 問1 ① ア ② エ ③ イ
 問2 ウ
 問3 II ウ III オ IV カ V イ
 問4 非
 問5 ですから、遠
 問6 太陽に～ながり
 問7 大気、海、川
 問8 エ
 問9 規則性
 問10 ア

□

- 問1 a エ b ウ
 問2 金切り
 問3 すく
 問4 ウ
 問5 まわり～れるか
 問6 イ
 問7 見せ方
 問8 ア
 問9 ウ
 問10 イ

解説

□

- 問2 空欄の後の部分に注目しましょう。「地球の気候は、原因と結果が複雑に絡み合っています」とありますから、空欄にあてはまる言葉は、「原因と結果が複雑」なものであることがわかります。「風が吹けば桶屋がもうかる」とは、「原因」から「結果」にいたるまでの経過が大変複雑でわかりにくいことのたとえです。
- 問3 前後の関係を読み取りましょう。II…「複雑な相互作用を抱いた気候システム」の例として、海の水蒸気や、南極や北極にある氷の話をしているので、「たとえば」が入ります。III…雨が気候におよぼす影響と南極や北極の氷が気候におよぼす影響の二つの内容が並べられているので、「また」が入ります。IV…将来の気候を予想しなければ対策も分からないので、「コンピュータの中に擬似的な地球を作って～予測しよう」という文脈です。空欄の前にあることがらを理由として、空欄の後の内容が続いているので、順接の「そこで」があてはまります。V…コンピュータでの予測のしかたについて、「格子状に刻む」ことに加えて、「方程式を立て」ることを述べているので、「そして」があてはまります。
- 問4 空欄の直前の「天気予報と気候予測」とは、どのようなものなのかを考えましょう。文章の後半部分では、天気予報の場合は、「どの地域が晴れるのか～ということを読み取るのに対し、気候予測では平均値を問題にするので、「ある年ある日の天候や温度には意味がありません」とあります。つまり、「天気予報と気候予測」は似ているけれども、全く別物だといえます。「似て非なるもの」とは、一見同じように見えても、内容が全く異なるものをいいます。
- 問5 「北京」での蝶のはばたきは、ほんの少しの変化ですが、それが「ニューヨーク」での嵐というとんでもない結果となって表れるということですから、「初期状態がほんの少し違うだけで、全く違う結果となる」ということを述べている箇所にもどすことができます。
- 問6 「先ほど述べた」とありますので、傍線部よりも前に「大気中の水蒸気」について触れた箇所があるはずですが、「太陽によって海面があたためられると水の蒸発量が増えて～」という部分には、海から蒸発した水蒸気が、雨になり、森ができて風や雨にもどるといったフィードバック機構が説明されています。フィードバックとは、結果となることがらも、また原因となることです。ここでは、水蒸気が雨の原因になり、その結果また水蒸気が生じて雨になっていくというシステムのことを指しています。
- 問7 傍線部の後で、筆者は「複雑になりすぎて計算できないので、特に気候にとって重要な要素である大気、海洋、海氷」の3つにしばっています。ここから、「以上のような気候の要素」は、大気、海洋、海氷を含み、それよりも数

が多いことがわかります。「大気、海、川、陸、生物、雪氷の間を、熱や水が次々と運ばれ～変化していきます。」の一文が、気候の要素を説明しています。

問8 「天気予報」と「気候予測」のちがいを考えてみましょう。「天気予報」は、「ある年ある日の天候」を予想するわけですから、「晴れ」「雨」「曇り」などの天候のうちどれか一つを示す必要があります。それぞれの可能性があるなかで、一つだけ選択するわけですから、当たりづらい側面もあります。他方、「気候予測」では、「気候」＝「一定の期間の気温や降水量などを平均した値」の変化を予測するものです。「気温」であれば、その変化は上がるのか下がるのかという二通りです。そのうち確率の高い方をしめすのであれば、「天気予報」が当たらなかったとしても、全体の变化の傾向は外れないこともあります。

問9 何の「ばらつきぐあい」なのかというと「気温の平均値、降水量の平均値」ですね。同様の表現が11行前にも書かれていました。「一定の期間の気温や降水量などを平均した値～そこには規則性が現れます」とありますから、これらの値の「ばらつきぐあい」とは「規則性」のことだとわかります。

問10 文章の書き出しには、地球が温暖化したことを前提に、「これから先は一体どうなるのでしょうか」と、今後の気候予測について問いかけています。そして、複雑な気候システムのため、予測するのは無意味なようにも思えるけれども、平均値の変化の可能性については予測しようという内容を説明しています。つまり、この文章は、気候予測が無意味なものかどうかを述べたものと言えます。

目

問2 「金切り声」とは、高く張り上げた鋭い声や、細くて甲高い声のことです。

問3 空欄の直後を読むと「よく言ってくれたぜ」とあるように、森下君に対して大河が文句を言ったことを、「ぼく」は快く思っています。「胸がすく」とは、心が晴れやかになるようすを表します。

問4 まずは「こういうところ」がどういうところなのかを読み取りましょう。すぐく勉強しているのにちがいないのに、勉強をしていないと言ったり、「まぐれあたり」だと言ったりするところですね。そうした態度が「いけすかない」、つまり気に入らないわけです。

問5 直前に「あたりをそっと見まわして」とあるように、まわりの雰囲気に合わせてようと思っていることがうかがえます。「一人や二人が拍手をしなかったからといってどうなるものでもない」とは、クラスみんなが、森下君がクラス委員になることを本当にいいことだと考えていることを意味しています。そんな中で、一人で拍手をしないことは、みんなとは逆の意見を持っていることを明らかにすることでもあり、まわりから「変わった奴だ」と思われてしまう危険をはらんでいます。そうしたぼくの思いを十五字ちょうどで書かれている場面をさがすと、10ページの11行め「まわりからどんな目で見られるか」が見つかります。

問6 森下君に対するみんなの反応について、「ぼく」がどのように思っているのかを考えましょう。「みんな、素直だな。単純だな。それともばかなのかしら。あいつは見せ方がうまいだけだってことを、わからないんだろうか」というところから、森下君に対して肯定的な反応をしめすみんなのことを「ぼく」がよく思っていないことがわかります。「もう、つきあいきれないよ」からは、そうしたみんなの素直な反応に対する否定的な感情が読み取れます。

問7 森下君の優等生的なふるまいを、「ぼく」は素直に受け取らずに、計算深い行動だととらえていますね。勉強ができることを自慢しないのも、花壇の花をすみの方に植えるのも、計算だと思っているのです。そんな「ぼく」の視点からすると、森下君の行動はすべてパフォーマンスであり、「あいつは見せ方がうまいだけだ」ということになります。

問8 この後の大河の行動に着目しましょう。「ミミズを森下君の目の前にぶらさげた」という行動は、森下君の勇気を試すものです。森下君がミミズをこわがっている姿をみんなに見せて、森下君をおとしめようと思いついたのですね。そうした森下君に対する悪意を説明した選択肢を選びましょう。

問9 「ぼく」の大河に対する気持ちは、直前の「優等生に、よく言ってくれたぜ」に表れています。いままで自分はまわりの目を気にして言えなかったことを、大河が言ってくれたことに対して、「よく言ってくれた」と思っているわけです。まわりを気にせず、自分の思うとおりに行動する大河をほめたたえている気持ちが読み取れます。

問10 文章中に描かれている森下君やまわりの人の言動と、それに対する「ぼく」の受け取り方を整理してみましょう。テストの得点がよいとき「まぐれあたりだ」と言う森下君に対して、「まぐれがそんなに続くもんか」と思ったり、森下君を何かと頼りにしている先生に対し、「どうして見ぬけないのかな。それとも、あえて見ぬこうとしないのかもしれない」と思ったりしています。これらの分析から、まわりの人たちの行動を冷静に（冷めた目で）見つめていることがわかります。しかし他方で、どの分析も森下君の優れた行動を、あえて否定的にとらえているとも言えます。「べつに妬くわけではないんだが、森下君以外にも、生徒はいるんですけど」という先生に対するメッセージは、本当は自分のことも認めてもらいたいという思いの裏返しなのです。森下君のようになりたいくてもなれないもどかしさ（ひがみ）から、わざと森下君を悪く言っているものと考えられます。